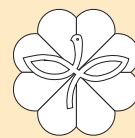


民児協おかやま

岡山市



第33号

平成23年11月1日



後楽園、岡山城と笠井信一知事の銅像

濟世 1914（大正3）年から1918（大正7）年にかけて戦われた第一次世界大戦は、日本に戦時景気をもたらしました。しかし、その末期、1918（大正7）年には物価の高騰、とくに米価の急激な高騰から米騒動が起こり、騒動は岡山も含めて全国に広がりました。

社会不安が増していく中、1916（大正5）年5月、宮中で開催された地方長官会議の場で、笠井信一岡山県知事は大正天皇から「県下の貧しい人々の状況はどうか」とご下問を受け、すぐに岡山県内の生活困窮者の実情を調査したところ、悲惨な生活状況にある者が県民の1割に達していることが判明しました。事態の重大さに笠井知事は日夜研究を重ね、ドイツのエルバーフェルト市（現在のヴッパータール市）の「救貧委員制度」を参考にして、1917（大正6）年5月、「濟世顧問設置規程」を公布し、民生委員制度の源と言われる「濟世顧問制度」が生まれました。

この笠井信一知事の銅像が岡山城北側、廊下門横の石垣の傍、木々に囲まれた一角にあります。1958（昭和33）年5月、濟世顧問制度創設40周年を記念して設置されました。

ロングコートを着、ネクタイを締め、右手にシルクハットの帽子を持つという、少し洒落た格好をしたこの銅像の周辺を毎月第2木曜日の朝、夏・冬問わず、岡山市の民生委員・児童委員はボランティアで清掃しています。

濟世顧問制度がはじまった今から90年余り前、今のような「福祉」の制度や考え方もなかった時代、笠井知事をはじめ、当時この制度に関わった人々の苦労はどれほどのものであったかと思えます。

先の東日本大震災では、自身の危険を顧みず、体の不自由な高齢者等の避難に奔走し、津波に飲み込まれた民生委員・児童委員も多数おられたと聞き、まさに社会奉仕の精神をもって地域の人々の支えとなりつづけてきた歴史が90年を越え、100年に届こうとしているその重みを改めて感じています。

事務局員 池 本 武 史



この広報誌は、共同募金配分金の一部をつかって作成しています。

就任あいさつ

岡山市民生委員児童委員協議会

会長 岸本 俊男



昨年の改選で、新たに会長に選任されました岸本俊男でございます。皆様、なにとぞよろしくお願い申し上げます。地区は北区中央福祉事務所管内弘西地区に属しております。

三月十一日に発生した東日本大震災により、甚大な被害を受けられた被災者の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

この度の震災では、現地の民生委員・児童委員の方々も大変な被害を受けられました。岩手・宮城・福島三県で四十三名の方々が亡くなられ、行方不明者も十五名、一六六軒の家屋が損壊（七月二十一日現在）し、そのような中であって、安否確認等民生委員・児童委員としての務めを懸命に果たされているとお聞きしております。

全国民生委員児童委員連合会におきましても、全国の民生委員・児童委員が一致協力してその使命感と積み重ねた経験を発揮し、深い悲しみと生活不安を抱える被災者や避難者をその置かれた状況に留意しながら励まし、相談・支援活動等に取り組むことを推進すると決議されました。

一日も早い復興を念じるとともに、岡山市民生委員児童委員協議会としてもできる限りの支援をして参りたいと考えております。

このような被災された方々への支援もそうありますが、私ども民生委員・児童委員は、広く安心して住み続けることができる地域社会づくりに取り組んでいかなければなりません。このことは、民生委員制度創設九十周年活動強化方策『広げよう 地域に根ざした 思いやり』行動宣言に盛り込まれているところです。

岡山市民生委員児童委員協議会におきましても、安全で安心な福祉のまちづくりを皆様の協力のもと強力に推進して参りたいと考えております。

皆様方のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます、会長就任にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。



副会長
南区 妹尾地区
小銭 純宏



副会長
東区 幸島地区
小橋 繁



副会長
中区 竜之口地区
高山 学



副会長
北区 一宮地区
蜂谷 克和



副会長
中区 高島地区
松嶋 且子



副会長
中区 旭竜地区
泉 照子



副会長
南区 芳泉地区
西山謙二郎

〈他の役員の方々〉

役 職	福祉事務所 管内・部	地 区	氏 名
常任理事	北区中央	出 石	水野 浩
		御 野	小田 勝弘
		三 門	児玉 信雄
		吉 備	佐藤 韶子
	中区	旭 竜	八代 武利
		平 井	光延 弘雅
		旭 操	和田 武市
	東区	瀬 戸	室 義忠
	南区西	藤 田	三宅 良一
	南区南	芳 明	岩藤 修昌
		浦 安	森上 綾子
	地域福祉推進部	御 野	近藤 洋士
		西大寺	江川 桂子
	主任児童委員部	太 伯	根木 一江
会 計	北区北	津 高	富山 明俊
監 事	北区中央	鹿 田	上平 智一
	北区北	伊 島	塩見 曠
	東区	上 道	西方 立夫

新任民生委員・児童委員として



北区 大野地区 岸 仁

昨年十二月一日に市民会館で行われた委嘱式には都合で参加できなかったため、委嘱状は十二月の定例会でいただきました。しかし、

その後は三月末の退職に向けて、仕事の課題整理と引き継ぎ書類の作成、様々な手続きに追われ、飛ぶように過ぎ去って行く毎日でした。そんな中で、三月十六日に開催される新任者研修の通知をいただきました。今後の民生委員・児童委員としての活動に必要な知識を学ぶことができると考え、参加し

ました。

研修を受け、民生委員・児童委員の役割が少し具体的に感じることができるようになりました。これまで、所在不明や老老介護などの「高齢者問題」や「児童虐待」など、テレビや新聞などで知っていた問題が、自分の担当地域内で起こっている問題として、注意を払う必要があることを認識しました。

その一方で、改めて自分の担当地域に、どんな人達が暮らしているのか知らないという自分自身の状況に、驚きと戸惑いを感じました。

この研修の中でも特に刺激的であったのは、高知女子大学の小坂田先生の講義「これからの地域福祉」でした。高齢社会から超高齢社会に入ろうとしているこの国の姿についてのお話は、大変興味深く聞くことができました。自分の子ども達が暮らすことになる超高齢社会に向けて、少しでも住みよい社会をつくることの大切さに気づかされ、この意味で大変感銘の深い話でした。そして、帰りの電車の中で、とても大変な仕事を引

き受けたと不安になりました。

しかし、その後、毎月の定例会を重ねる中で、経験豊富な民生委員・児童委員の方々に支えられて、なんとか続けようともがいている毎日であります。

中区 幡多地区 笠井 一正



地域の推薦を受けて、幡多地区の民生委員・児童委員を委嘱されました。

最初お話があった時、まず頭に浮かんだのは、過去に民生委員・児童委員との関わりがまったくない、町内会での活動もごく限られた参加であつたため、「果たして自分がどれほど人様のお役に立てるのか」という不安と、「今日まで少しの不自由もなく、平々凡々と過ごして来られたのは、周囲の方々の目に見えない色々の支えがあつたればこそ」との思いでした。そして、「元気で動けるうちにお返しできることがあれば」との気持ち

で、この役をお受けしました。

昨今、少子・高齢化、あるいは核家族化で人々の関わりが希薄となり、その結果、高度経済社会の隙間でお年寄りが人知れず亡くなり、あるいは幼い子どもがその尊い命を奪われるという事案が、新聞・雑誌・テレビ等で多く取り上げられています。そのような中で、民生委員・児童委員としてしっかりと地域に溶け込み、援助や手助けの必要な家庭を確実に把握するとともに、関係の役所・機関、地域の方々と連携を密にして活動していくことができればと日々考えを深めている次第です。

毎月の定例会に出席し、ベテラン・先輩のお話を聞き、少しずつではありますが、民生委員・児童委員として、自分なりに「少し早めに」「少し多めに」各種の支援と援助が行えるよう頑張っていると思いますので、今後皆様の一層のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

東区 瀬戸地区 津島 恵子



瀬戸の地に住んで三十有余年。

しかし、地域のことについては両親に任せ、勤めていることにかこつけて、ほとんど知らない状態の私ですが、昨年退職したこと、地域の方より「民生委員・児童委員を」とのお話をいただき、お受けいたしました。

前任の方からの引き継ぎでことの重大さを痛感し、「果して自分ではいいのだろうか、自分にこの大役が務まるだろうか」と思い悩みました。そんな中にも、地区餅つき大会、食事会、友愛訪問、お花見会、ふれあいサロンと月々の行事が確実に押し寄せてきます。何分、はじめてのことばかりで戸惑うばかりですが、地域の方々のお支えとご協力により、どうにか仕事ができている状況です。

訪問を重ねるうちに面識のなかった高齢者の方とも世間話がで

きるようになりました。また、地域を歩くことで様子が少しずつわかるようになり、道で出会うと地域の方からも気軽に声をかけてくださるようになりました。

毎月の定例会等での研修や先輩委員の方にお話をうかがったり、いろいろ教えていただいたりして、学びながら日々活動しています。

これから、民生委員・児童委員として地域の皆様に信頼されるよう努力していきたいと思っています。ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

南区 妹尾地区 前田 純子



「主任児童委員ってどんな活動をするのだろうか」「そのような大役が私に務まるだろうか……」お受けするにあたり悩みましたが、何ごとも自分の成長につながると思い、新しく地域の民生委員・児童委員の仲間に入れていただきました。

民生委員・児童委員の先輩方は深い愛情をもって人に関わっておられ、活き活きと活動されています。問題を抱えている時に相談をすると一緒に考えてくださったり、見通しをもった示唆を与えてくださったりするので心強く思っています。また、会食やお飾りづくりなどの行事で、先輩方の労をいともわかない献身的な姿に接し、私も少しでも近づきたいと思うようになりました。

活動を通して地域のいろいろな人と触れあえることは私の人生の宝物となっています。

一方、地域や学校が抱える問題なども少しずつ知るにつけ、主任児童委員の難しさや役割の大切さを痛感しています。

微力ではありますが、地域や子ども達のため力を尽くしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



はじめまして地域福祉推進部です。

地域福祉推進部 副部長 江川 桂子

昨年の一斉改選にあわせ、長い歴史のあった女性部と専門部を発展的に解散して、私達地域福祉推進部が設置されました。

近年、DV（ドメスティックバイオレンス）、児童虐待、認知症など福祉課題は非常に多様化しています。このような中、次代の地域福祉の担い手を育成していくため、男女の区別なく、地区会長以外の中堅民生委員・児童委員からなる部を組織し、専門部と女性部が行っていた活動も引き継ぎながら、研修とボランティアを活動の二本の柱として取り組んでいくこととなりました。

さて、八月八日から九日にかけて、堺市立こどもリハビリテーションセンターと貝塚市の情緒障害児短期治療施設「あゆみの丘」に部としてはじめての研修に行きました。

堺市立こどもリハビリテーションセンターでは、発達遅れや障害のある子どもに適切な療育を提供して発達と自立を促し、地域で暮らしていける

よう、家族も含めて総合的に支援しています。発達に何らかの課題のある子どもとその保護者を、就学前に「遊びの教室」を通じて援助に結びつけるなど早期発見・早期療育の取り組みがなされていました。

あゆみの丘は、様々な原因で適切な行動が取れなくなり、人間関係が保てず日常生活に支障が生じている子ども達のための施設です。入所原因の多くが虐待であるため、暴力や暴言を使わずに子どもを育てる技術（コモンセンスペアレンティングと言います）を保護者に伝える取り組みを行っています。具体例をあげて

話していた
だき、今子
育てをして
いる方すべ
てが「なる
ほど」とう
なづけるお
話でした。



福祉関係者の「コ・ナ・イ」 岡山市東区福祉事務所

「地域の力とは」

東区福祉事務所 所長 安部 裕嗣

最近、ある会議で「ソーシャルキャピタル」という言葉を聞きました。

「人と人との信頼関係に基づいて形成されるネットワークが社会を活性化する資本である」といった意味のようです。人と人とのつながりが、私達が豊かに暮らす土台であるといった感じでしょうか。

昨今、核家族化による世代間のつながりの希薄さ、向こう三軒両隣がどんな人が住んでいて何をしている人なのかわからないという近隣のつながりの希薄さが顕著であると言われます。

そんな中、地域のコミュニティづくりのために地域の方々が様々な工夫をされておられますし、また、行政としても側面からそのサポートを行っているところです。

そのような中、ある民生委員・児童委員さんがこう言われておりました。「行政の施策として防災のネットワークをすすめているが、本当は地域から声があがり、地域の自主的な防災組織ができればと思っています。

る。大事なのは大きな組織をつくることではなく、向こう三軒両隣の人達が普段から人と人とのつながりをつくる中で、災害が起こった時誰が何をするかを決めておくこと。そういう自主的できめ細やかな組織づくりが大事である」と。

私自身、地域で福祉を考える時は、地域の民生委員・児童委員、愛育委員、町内会長さん等と福祉事務所、保健センター、学校・園等が連携する必要がある、連携するにあたっては、それぞれ組織の看板を背負っている、最後は「人と人とのつながりである」と考えてきました。まさにその「人と人とのつながり」こそが、「ソーシャルキャピタル」だと思っています。

以前から、「福祉は人なり」と言いますが、今後とも、福祉の人づくり・人を育てることを大切にしていきたい、そう考えながら、日々の業務にあたっているところです。



東日本大震災被災者支援の取り組み



中区 竜之口地区 会長

高山 学



平成二十三年三月十一日、三陸沖を震源に国内観測史上最大のM9.0の地震が発生し、地震の揺れもさることながら、それに続く津波により広範囲で甚大な被害が出ました。

この震災で発生した原子力発電所の事故などにより、住む場所をあとにした被災者の方が岡山市内へも避難して来られました。慣れない土地で、家財等も必要最小限のものしか持ち出せていないため、不自由な生活を余儀なくされています。

私たちの竜之口地区も避難者の方を受け入れることになり、民生委員・児童委員もその対応にあたることとなりました。

町内会と支援策について連絡を取り合い、避難者の方の生活と人

権が守られるよう周辺住民の皆さんにご理解とご協力をいただき、無事受け入れることができました。

竜之口地区では、過去に阪神淡路大震災により地区内に避難や転居を余儀なくされた被災者の方々の支援を行った経験があります。その時の新聞記事を何度も読み返し、地域の特色を生かした避難者の方々との交流会を計画しました。

「マスコミに取材に来てもらう」という声もありましたが、近隣の民生委員児童委員協議会の助言をいただき、何より大切なのは避難者の方々の日常生活を守ることであり、その視点に立って計画を進めました。

避難者の方々との交流会は、小学校の卒業式の後に行いました。竜之口地区の女性民生委員・児童委員が郷土色豊かな手料理をつくり、もてなしました。

未曾有の災害に遭遇した避難者の方々にとって、どのような言葉

かけが励ましと勇気づけになるのか大変悩みましたが、地域社会がひたむきに支援をしているその心が伝われば十分でした。

交流会では、震災の時のことを話してくださいました。

茨城県から避難されて来た方は、働いていた特別養護老人ホームで、津波が押し寄せる中、無我夢中で自分の周りにいる利用者の方々を高台に避難させることが精一杯で、施設の奥の方へ戻ることはできなかったと泣きながら話してくださいました。最初は東京都内、次に名古屋市、尾道市、最後に岡山市が受け入れてくれたということです。転々としたのは、茨城県からの避難者は受け入れの対象外になっていたからで、受け入れてくれた岡山市には感謝の気持ちを持たれているようでした。現在、この方は、故郷の茨城県内で再就職先を探し、生活を再建されつつあります。岡山市内の特別養護老人ホームが快く受け入れてくれることになっていましたが、古里を捨てることができなかつたようです。

小さなお子さんを連れて福島県

から避難されて来た方は、ご主人は単身で福島県のいわき市内で災害復旧作業に従事されているそうです。あいにく体調不良のために交流会を欠席されました。この方は五月中旬にいったん福島県へ帰郷され、原発の放射線に怯えながら生活をされておられます。今でも電話で連絡を取り合い、近況を教えていただいています。日々どのくらい放射線を浴びているかわからず、特に子どもが心配だが、自治体に線量計が不足し、モニタリングできないとお聞きしました。それでも、電話の向こうでは、明るく元気な声で話してくださいました。逆に勇気づけられるように感じます。

避難者の方々からは、古里への思いを強く感じました。

この地域で生活が続ける方も、古里の地で生活の再建をする方も、どちらも少なからず縁のあった方達です。竜之口地区民生委員児童委員協議会では、被災地の復興がなされるまで何らかの形でお手伝いを継続していきたいと思っています。

モデル地区三年間をふりかえって

南区 妹尾地区 会長

小銭 純宏



私達妹尾地区民生委員児童委員協議会は、平成二十年度より岡山市民生委員児童委員協議会から他地区の見本となるようにと「モデル地区」の指定を受けました。

「他地域にない活動を!!」と協議を重ね、一年目は高齢者と障害のある方の住宅点検を展開しました。

玄関ドアのレールの不備と戸車の取替三件のほか、軽度の認知症の方のお宅にうかがい、座敷の仕切戸の敷居不良をカンナで修正し、奥様に大変感謝されました。また、耳の遠い一人暮らしのおじいさん宅では、建設労働組合の畑氏にも大工のプロとして応援していただき、玄関先の化粧板の交換をしたところ、「民生委員さんよ!! (畑さんのお嫁さんの世話はしないのか?)」

といきなり言われ、大笑いをしました。

二年目は、岡山市南消防署妹尾出張所の指導のもと、救急救命講習会を開催し、人工呼吸の仕方を学び、民生委員・児童委員として近隣で万一の時に役立てればと全員で勉強しました。また、火災報知器について、平成二十三年六月一日までに既存の一般家屋の寝室、階段室にも設置が必要との指導を受け、自力で設置が困難と思われる八十五才以上の高齢者の方のお宅に、せめて寝室に一個ずつでもと、何とか費用を捻出し、男性民生委員・児童委員が中心となって四十五軒のお宅に取り付けをしました。

三年目は、地域の七十五才以上の一人暮らしの高齢者の方々に一堂に会していただいて一日を楽しく過ごしてもらおうという企画を立て、一〇〇人以上ともなる参加者全員が会食もできる場所として西

ふれあいセンターのホールを選び、実施しました。

会場までの送迎は、近隣の特別養護老人ホーム若宮園のご好意で、運転手・助手付きでバスをお借りし、参加者から見ればお孫さんのような「心からの手紙」を書いてくれている中学生二十名と手を取り合って入場してもらい、会場は一杯になりました。

第一部は「妹尾地区の高齢者を交通事故ゼロに」との願いで、岡山南警察署に相談して夜行タスキを参加者全員に贈呈しました。あわせて交通安全・事故防止について講演もしていただき、また、女性警察官による

振り込めサギ防止の寸劇を見せてもらい、笑いも交えながら勉強することができました。

第二部では民生委員・児童委員手づくりのお寿司を食べながらアトラクシ



ンを楽しんでいただきました。民生委員・児童委員出演の「千円札が一万円札に変わる」マジックショーでは笑いを誘い、華麗な音色の大正琴による「私の城下町」「水戸黄門」などの曲の演奏では若い頃を思い出されていたようです。

最後はビンゴゲームで子どもの頃に帰ったような大歓声で盛り上がり、備前焼のぐい呑みや小皿、民生委員・児童委員手づくりの竹細工、民生委員・児童委員OBの色紙等々沢山の景品で、三時間余りを楽しんでいただきました。

以上、地域のために少しでも役に立てれば、また他の地区の取り組みの参考になればと、知恵を出し合い、三年間を懸命に取り組んで参りました。この紙面をお借りして、陰で協力をしてくださった多くの皆様にお礼申し上げまして報告に代えさせていただきます。

文芸欄

写真

岡山市北区御津金川にある
「日蓮宗不受不施派祖山妙覚寺」

北区 御津地区 河原 宏侑



もみじの赤が青空とともに映えてきれいでした。

この写真の左側に写っている石垣の上に宝物殿ができるので、もみじを切ることになるそうです。

この風景が見られるのも今年が最後です。

※平成二十二年撮影



「集魚灯と大山」

中区 幡多地区 大松 佳也



私は現在、写真の勉強中です。

この写真は今年の五月頃、境港市の港で撮影しました。

◆委員より◆ 文芸欄を募集します。写真・絵・工芸・俳句など自薦他薦は問いません。事務局までご連絡ください。
事務局（福祉援護課内） ☎086-803-1218

編集後記

民児協おかやま第三十三号をお届けします。

昨年十二月の一斉改選後はじめての発行です。

今号は、新たに就任された方々の挨拶が中心となりましたが、今後は各地区のユニークな活動状況等の紹介も取り入れて、親しみやすい、対外的にも民生委員・児童委員をPRできる広報誌を目指して企画・編集に取り組んでいきたいと新広報委員一同燃えております。

ご寄稿くださいました方々に厚くお礼申し上げますとともに、広報委員会に対し一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

西方 立夫 記